

カーンネットワークの教訓

2009・3・21 吉田文彦

カーンネットワークの存在は、国家を主たるアクターと想定して核兵器拡散防止体制の構築をめざしてきた核不拡散条約（NPT）の **credibility** を大きく損なう結果となった。国連安全保障理事会決議1540号の採択、運用には、NPTを補強し、その **credibility** 回復をめざす含意がある。だが、この「核の闇市場」事件の歴史的教訓は、NPTという国際法の脆弱性ではなく、むしろ、「政治的、戦略的事由に基づく核不拡散対策の不履行」がNPTの **credibility** を危うくしている側面にある。

1 パキスタンへの密輸入のフェーズ

- ・ オランダ当局の初動捜査の遅れ——オランダの **political insensitivity**
- ・ 米国の軍事的・政治的対応——パキスタンに対する米国の **political considerations**
- ・ カーンネットワーク放置——ソ連のアフガン進攻後における米国の **strategic decision**

2 パキスタンを拠点にした密輸出のフェーズ

- ・ 9・11テロによる対パキスタン戦略——カーンネットワーク対策が後回しに
- ・ 「Wait and See」戦略の功罪——リビアへの輸出は摘発したが、その他の摘発に遅れ
- ・ 真相解明の限界——パキスタン軍、政府の関与をあえて追及せず

3 シリアへの原子力施設の密貿易

- ・ 北朝鮮が関与？——6者協議への配慮からか、正面からの追及なし
- ・ イスラエルの攻撃——被害国のシリアも、情勢を知っていた米国も真相を明かさず

4 日本への含意

- ・ カーター政権時代の「二重基準」——カーター政権の核燃料サイクル反対で、国際核燃料サイクル評価（INFCE）会議を開催。その同じ政権が、アフガン対策のために、パキスタンへの拡散を止めなかったこと⇒同盟国・日本に不利な「二重基準」。
- ・ 北朝鮮への密貿易めぐる戦略的判断——リビアへの密輸把握まで、北朝鮮への密輸黙認⇒同盟国・日本に不利な判断

5 日本企業とカーンネットワークの関わり

- ・ 参考情報——共同通信報道 (<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/>)に掲載。「ピースニュース」の2009年2月16、17、25日付)